

## 11 稲美町の歩み

- 11 - 1 稲美町のあらし
- 11 - 2 年表

## 稲美町のあらまし

稲美町は、<sup>いなみの</sup>印南野台地にあり大きな川もないため、近世にいたるまで野原のままで姿をとどめていました。先人たちは、水不足とたたかいながら知恵と努力により江戸時代以降土地の開墾を進めました。明治・大正時代の<sup>おとうご</sup>淡河川・<sup>ますい</sup>山田川疏水の完成、東播用水の補完により、現在では89のため池（約400haあり耕地面積の約1/4を占める。）によって<sup>かんがい</sup>灌漑用水が賄われています。また、<sup>ぶどう</sup>葡萄酒の国産化のために試作をすべく、明治時代に開設された国営の播州葡萄園の園舎遺跡が平成8年に発見され、平成18年に国指定史跡になりました。

万葉集の中では、「印南野」「印南野原」「いなみ」の名を詠み込んだものが13首にもものぼっています。

昭和30年に<sup>かこ</sup>加古村、<sup>もり</sup>母里村、<sup>てんま</sup>天満村の3カ村が合併し、南北6.5km、東西7.9km、面積34.96㎡の稲美町が発足し、現在人口約32,000人の町として着実に発展しています。

東は神戸市、南は明石、西は加古川市、北は三木市に接し、阪神地域から50km圏内にあり、県道・町道が縦横に整備されるなど、都市近郊農村地帯として立地条件を十分に備えています。

文化活動の拠点となっている「いなみ文化の森」は、さまざまな芸術文化の鑑賞や発表ができる「文化会館コスモホール」、実習、研修などで創造性を引き出す「ふれあい交流館」、情報と教育の泉である「図書館」をあわせもち、多くの町民に親しまれています。

また、稲美中央公園の一角には、「いなみ野」と「いなみの海」と表現した公園「いなみ万葉の森」、たくさんのボランティアの協力でコースを整備した「万葉森林浴グラウンドゴルフ場」があります。「いなみ万葉の森」は、茶室を備えた「憩いの館」と万葉歌碑のある回遊式日本庭園からなり、万葉集に詠まれている樹木や草花が植えられており、季節ごとに遙か昔を楽しむことができる静寂な庭には風情が満ち満ちています。

その他、バーベキューサイトのある「天満大池公園」、陸上競技場「サン・スポーツランドいなみ」、身近な自然を呼び戻し、水辺の豊かな自然と触れあえる「いなみ野水辺の里公園」、健康づくり施設「いなみアクアプラザ」などがあります。

先人が残してきた貴重な環境・歴史・文化を守りながら、住民と行政の「協調と対話」による、誰もが「住んでみたい、住んでよかった、これからも住み続けたい」と思えるようなまちづくりをめざします。

11-2 年表

西暦	時代	町史関係事項	一般事項	
644	飛鳥 白鳳	藤原弥吉四郎ら蛸草村に耕作を始める(入ヶ池由来記)	大化の改新	
~645		大化の改新以前、播磨は次の三国に別れていた針間郡→飾磨郡、針間鴨国→加東郡・加西郡以西、赤石国→赤石郡・加古郡・印南郡、美囊郡		
647		藤原弥吉四郎ら初めて米一石・柴15把を献ずる(入ヶ池由来記)		
651		法道仙人高菌寺を創設(高菌寺縁起)		
653		国安天満神社の前身王子権視を国安字東に観請(天満神社文書)請久寺創建(請久寺文書)		班田収受法 壬申の乱
675		岡大池を築く(口碑)		
701		民家16軒、米2石、柴25把献ずる(入ヶ池由来記)		
713		播磨国風土記に舟引原の記事		
714		入ヶ池完成(入ヶ池由来記)		
726		聖武天皇印南野行幸		
739	北山川上真楽寺創建行基の薬師如来像安置(真楽寺縁起)	東大寺大仏開眼供養 最澄、天台宗を始める 空海、真言宗を始める		
740	入ヶ池由来記書かれる			
743	行基、円光寺創建			
806	野寺経之池を築く			
893	天満神社、社殿を現位置に移し、池大明神を祀る			
901	菅原道真西遷に途次、天満神社の地に立ち寄る(伝説)		菅原道真 没	
1186	平安 鎌倉 吾妻鏡、後白河法皇の頼朝への勅答に五ヶ庄の語がある(五ヶ庄は、野寺、北山・中村・森安・六分一・国安・岡)		法然上人浄土宗を始める 栄西臨済宗を広める	
1225 1226	草谷川、大洪水で村が流れる		源頼朝、鎌倉幕府を開く 親鸞信仰教書を著す 道元曹洞宗を始める 日蓮法華宗を始める	
1336	赤松則村、望理郷四至勝示			
1355	八大如林上人、高菌寺中興			
1369	南北朝 国安五輪塔建つ			
1380	赤松則村高菌寺へ蛸草庄東西二十町南北五町寄進			

西暦	時代	町史関係事項	一般事項
1390	室町	国安宝篋印塔建つ	南北朝講和
1429		播磨、丹波に一揆起こる	
1441		赤松満祐滅ぶ時、高菀寺・法雲寺共に焼失	嘉吉の乱
1442		高菀寺縁起書かれる	
1445		赤松氏亡び幸竹にのがれて住む者あり	
1462		草谷天神社創建	
1488		赤松政則、播磨・備前・美作を回復する	応仁の乱終わり戦国時代始まる
1495		道全上人明福寺創建	加賀一向一揆起こる コロンブス新大陸発見
1528		明福寺焼失	マゼラン世界一周
1532		草谷川大洪水	
1534		明福寺再建。常泉寺、多喜太夫により創建され涼光上人初代住職となる	鉄砲伝来
1553		清良和尚、清久寺を曹洞宗として開基	ザビエル、キリスト教伝える
1565		国安天満神社再建、主神を天満天神とする	
1580		三木落城、別府氏亡ぶ。高菀寺焼失	室町幕府終わる
1587	円光寺宮之内古井屋敷より現天満神社境内に移る	秀吉関白となる 秀吉キリシタン禁圧 秀吉、朝鮮出兵	
1601	姫路藩主池田三左衛門より国安天満宮へ黒印五石、清久寺へ三石の証文がある	太閤検地(文禄検地) 家康征夷大將軍になる	
1621	江戸	神出手中に新池築造について、蝸草郷と明石側水論	キリスト教禁圧
1625		中一色若宮建つ	
1631		沼田与次太夫西条大庄屋となる	参勤交代制を定める、島原の乱
1639		太平衛弟平左衛門幸竹の開墾を始める	
1642		幸竹池を造る	オランダ商館を出島に移し、鎖国完成
1653		中一色初めて検地	
1654		幸竹若宮建つ	
1657		幸竹開発許可、村名を幸竹とする	
1658		加古沢兵衛、加古新村開発を願い出る	
1659 1685		野際新村開発	

西暦	時代	町史関係事項	一般事項	
1660	江戸	加古大池を築く	京畿大地震	
1661		出新田最初の検地、開発許可		
1662		上新田二十三軒、国岡新村開発、愛宕神社建立		
1663		榊原式部大輔より国安天満神社へ森林二町四方寄進		
1664		加古新村初めて検地。野寺、野谷相合の図がある		
1666		蛸草郷と神出の論争		
1669		加古に池六ヶ所築造		
1670		蛸草と神出水論		
1678		狐池を築く		
1680		加古大溝用水路完成、八幡神社創建		綱吉第五將軍となる 生類憐の令
1682		小山六右衛門中村組大庄屋となる		
1691		真光寺教意上人創建		
1692		野谷新村を草谷庄屋藤右衛門、野寺庄屋実相坊の加判により次右衛門が開発		
1693		川上真楽寺仏像再興、本尊薬師如来外脇侍日光月安置		
1696		蛸草郷と草谷水論		
1697		小山五郎右衛門、沼田与次太夫蛸草新村を開く		
1701		国安天満宮本社再建		
1702		沼田久右衛門、蛸草新村の庄屋となる	赤穂浪士仇討	
1703		広沢池、広谷池を築く		
1704~1710		泉州堺の嘉右衛門ら印南新村地域の開発を始める		
1705		印南新村川北住吉神社創建		
1710		河原田井堰を利用し、加古大溝用水を補強する草谷村と広谷村の水論		
1712		加古新村の沼田理平次を庄屋に迎え、印南新村の本格的開発にかかる		
1724 ~1730		大かんばつで餓死者がでる		吉宗將軍となる 全国の戸口、耕地調査(全国調査初め) 全国二回目の人口調査 物価引下令を出す
1737		蛸草郷と印南新村水論		
1741		沼田理平次印南寺創建		
1743		蛸草新村と印南新村水論中村字堂上池大明神社創建		

西暦	時代	町史関係事項	一般事項	
1748	江戸	蛸草新村若宮創建、台風災害	農民の強訴、徒党、逃散厳禁	
1749		姫路藩百姓一揆、野谷伊左衛門ら西条大庄屋焼打		
1754		小山彦十郎大庄屋免ぜられる		
1755		沼田理平次印南新村大庄屋となる		
1759		旱魃		農民借米、借金返済不要の令示
1764		草谷郷と山西新村(神出)の水論		
1766		草谷郷と加古、国岡新村の水論		
1771		神出東村何某、山田川疏流立案		
1790		初めて瓦焼記録がある(印南の喜太郎)		この頃から大飢饉続く フランス革命
1797		蛸草郷と草谷村水論		
1800		野寺若宮創建		ナポレオン即位
1808		草谷郷と勝成新村(神出)水論		
1819		草谷郷と興治新村(別所)水論		
1826		国岡福田嘉左衛門山田川引水を図る		
1836		天保大飢饉		
1852		蛸草と印南新村の水論。広谷、草谷分境石建つ		近畿地方風水害
1869	明治 辰己池竣工	ペリー浦賀に来る 大政奉還完了、平民に民性を許し、帯刀を禁じる		
1871	姫路県誕生、直ちに飾磨県と改称 明治五年前半まで村役を里正と称する	廃藩置県、郵便規制測定 新貨条例を定め、一円単位とする		
1872	母里地区に推明・成章・弘道三小学校を設置 魚住完治山田川疏水、発起測量	庄屋を廃止し大区小区制実施、正副戸長を置く、寺小屋廃し、学制発布		
1873	加古地区に命時・明強小学校、天満地区に勤成・章魚・双寿迪明小学校創設	太陽暦採用、断髪令・徴兵令・地租改正 条例発せられる		
1874	天満地区小学校を章魚・双寿迪明・杜安と変更 国安天満宮、印南住吉神社共に郷社となる	大阪-神戸間鉄道開通 小区に区長、町村に戸長を置く		
1875	母里地区三小学校を合併し母里小学校とする	平民に必ず苗字をつけさせる 廃刀令		
1876	飾磨県は兵庫県に編入される 地租改正調査始まる	西南の役		
1878	地租改正発表、山田川疏水請願			
1879	大区小区を廃止し、一村に戸長を置く 寺家町に郡役所を置く	郡区長村編成法施行		
1880	連合戸長制採用、播州葡萄園開園	教育令改正		
1881	母里地区地価修正			

西暦	時代	町史関係事項	一般事項
1882	明治	印南新村に郵便取扱所開設 天満に章魚・杜安小学校、加古の二校を合併し、鳴ヶ岡小学校として加古・国岡・北山を学区とする	小学校令改正(初等三年、中等三年、高等三年)
1883		小学校に高等科を置く。山田川疏水調査	三大節、新年・紀元節・天長節拝賀きまる
1886		疏水発足、水利士功会設立	小学令を改め尋常科四年を義務教育とする
1887		加古・母里・国岡各小学校を簡易小学校と改称	小学校簡易科(三年)を設ける
1888		疏水水源淡河川に変更し起工式を行う 葡萄園払い下げる	姫路-明石間鉄道開通
1889		加古新村、母里村、天満村誕生	憲法発布、市町村制施行 東海道線鉄道開通
1891		淡河川疏水開通 母里・天満各尋常小学校となる	国会開設、水利組合条例発布 小学校令改正、教育勅語発布
1892		疏水路崩壊	御真影を受ける
1893		疏水復旧工事始まる	日清戦争
1894		疏水復旧工事完成	
1895		高砂警察加古分署建物を加古新村役場とする	郡制実施 農会法制定
1899		加古小学校千和池に新築移転 加古新村に加古郡第二加古高等小学校開校	農業組合法制定 小学校令改正
1900		天安信用組合設立	
1901		郡、農村会発足	日英同盟
1902		土山-社間乗合馬車開通	
1903		各小学校に高等科、母里尋常小学校に実業補習学校を置く	ライト兄弟の飛行機
1904		加古新郵便局、千和池で開局	日露戦争始まる アインシュタインの相対性理論
1906		国岡信用組合設立	小学校令改正
1907		中一色揚水場工事	
1908	山田川疏水出願	水利組合法公布 義務教育制六年制となる	
1910	中新田、千和池信用組合設立 土山-三木間乗合馬車運行	大逆事件 日韓合併	
1911	山田川疏水起工	ドイツに宣戦布告	
1915	山田川疏水幹線水路竣工 母里役場新築移転 母里裁縫学校開設		
1916	天満村役場国岡に新築移転 岩坂銀行営業開始	米価暴騰 米騒動勃発 シベリア出兵 パリ講和条約 第一回国勢調査 ワシントン軍縮会議	
1920	流行性感冒大流行、草谷農政同志会、 母里裁縫学校を廃し農業補習学校開設		
1923	母里農会に技術員を置く	郡制廃止、関東大震災	

西暦	時代	町史関係事項	一般事項
1924	大正	天満信用組合設立、広谷川河原田井改修、母里村に小作争議起こる	
1925		広谷川事件起こる	
1926	昭和	郡役廃止、薙刈同業組合設立、青年訓練所付設	治安維持法・普通選挙法制定 北但大地震
1927		加古新村役場八軒屋に新築移転	金融恐慌、丹後大地震
1929		加古新村信用組合設立	
1930		母里郵便取扱所開設	金輸出解禁、ロンドン軍縮会議 大豊作、米価暴騰、農村恐慌
1931		綿羊兔組合・養鶏組合設立 青年充当農業公民学校	満州事変、5.15事件 日本の国際連盟脱退
1933		加古川-母里間バス開通 国岡耕地管理組合設立、疏水山田池竣工	ドイツでヒトラー内閣成立 室戸台風
1934		加古新村信用販売購買組合設立	
1935		加古新村と草谷川八ヶ郷水論和解 実補習合として青年学校となる	
1936		母里信用販売購買利用組合設立	ニ・ニ六事件
1938		天満信用販売購買利用組合設立	食堂、料理店での米食禁止
1940		天満郵便局開局、部落農会再編成 農業実行組合結成	日独伊三国軍事同盟 大政翼賛会結成
1941		加古大池県営工事着工	太平洋戦争 小学校を国民学校と改称 生活必需品物資統制令公布
1943		天満農村会発足、母里農業会発足 相野に飛行場建設 神戸下山手国民学校天満に疎開	
1945		阿久根台風の大雨で天満大池決壊	
1946		村長公職追放	太平洋戦争終結(八・十五) 日本国憲法公布、臨時物資需要調整法 交付、公職追放令公布、第一次農地改 革、新円切替旧円封鎖、第一回総選挙地 方自治法公布、第二次農地改革、学制改 革、六・三制実施、教育基本法施行 農業協同組合法公布
1947		知事、県議、村長、村議選挙 国民学校を小学校と改称 新制中学校発足	ベルリン封鎖 イスラエル建国
1948		加古新村を加古村と改称 加古・母里・天満三農協発足 母里中学校新築	
1949		加古大池改修完成 母里中学校に県立農業高校定時制を置く	中東戦争
1950	明石-母里間バス開通(神姫バス)	ジェーン台風	
1951	明石-蛸草間バス開通(神戸市バス) 加古保育園開設	サンフランシスコ平和条約 日米安全保障条約	
1952	村教育委員会発足	講和条約発効	
1953	兵庫県町村合併促進協議会発足 西和田さく井灌漑 母里・天満幼稚園開園	NHKテレビ放送開始	
1954	加古幼稚園開園		



西暦	時代	町史関係事項	一般事項
1955	昭和30	稲美町発足 母里定時制独立校舎新築	
1956	31	町章制定 広報いなみ発刊	教育委員任命制 日ソの国交樹立
1959	34	各小学校給食開始	
1961	36	加古・母里有線放送開始 加古川商工会義所稲美支部結成 町内に企業誘致を決定	日米安保条約(改定) ソ連人間衛星打上げ 農業基本法公布
1962	37	天満有線放送開始	人口1億1千万人突破 キューバ危機 ケネディ暗殺
1963	38	地籍調査を開始 神戸市との合併問題起こる 稲美町有線放送農業協同組合設立 天満南部に簡易水道始まる	
1964	39	財政再建準備団体指定 加古地区に簡易水道始まる	東京オリンピック開催 東海道新幹線開通
1965	40	天満北部に簡易水道始まる	ベトナム戦争
1967	42	母里北部に簡易水道始まる	
1968	43	母里南部に簡易水道始まる 稲美町商工会設立 ゴミ焼却場完成 県ほ場整備事業着工(稲美町南西部地区) 第一回菊花展開催	人類初の月着陸(アポロ11号)
1970	45	中央公民館開館(現「いきがい創造センター」) 稲美町子供会育成協議会設立 上水道認可 財政再建準備団体指定解除	
1971	46	稲美電報電話局開局 第一回新春マラソン 東播都市計画地域に指定	稲作転作対策始まる
1972	47	加古郡清掃一部事務組合発足	日中の国交樹立 沖縄の復帰
1973	48	天満南幼稚園開園 稲美町商工会設立 県営ほ場整備事業着工(稲美北部地区) 加古郡衛生センター竣工 稲美町体育協会設立	
1947	49	社会教育推進員制度	ロッキード事件
1975	50	西部隣保館竣工 稲美中学校開校 定時制分校廃校 こばと学園開園	
1976	51	県立東播磨高等学校当町内に移転 文化協会設立 老人大学開講	水田総合利用対策始まる
1977	52	町民体育祭開始 清掃センター竣工 稲同協設立	日中平和友好条約
1978	53	役場庁舎竣工 町民憲章、町花(コスモス)、町木(もちの木)を制定 町技能職者表彰制度制定 西部配水場竣工	
1979	54	県立稲美野養護学校(現いなみ野特別支援学校)開校 天満地区コミュニティセンター開館	イラン革命

西暦	時代	町史関係事項	一般事項	
1980	昭和 55	天満南小学校開校	ガン死が死因のトップに レーガンがアメリカの大統領になる	
1981	56	稲美町史発行 下沢教育集会所竣工 県営ほ場整備所業着工(稲美地区)		
1982	57	天満東小学校開校 国岡・国北土地区画整理組合設立 加古川市に消防事務を委託開始 都市計画税を新設し徴収開始		
1983	58	天満東幼稚園開園 郷土資料館開館 加古川市東消防署稲美分署が業務開始		
1984	59	全町公園化計画を推進 老人福祉会館(現「総合福祉会館」)竣工		
1985	60	稲美北中学校開校 稲美勤労者体育センター(現「いなみ野体育センター」)竣工 町制施行30周年		
1986	61	稲美中央公園にテニスコート完成 ゲートボールコート完成		米ノIMF全廃条約に調印
1987	62	コスモス児童館完成 稲美中央公園に多目的グラウンド完成 いなみ朝市開始 農村環境改善センター竣工		
1988	63	(社)シルバー人材センター設立 住民票のコンピューター発行開始 天満大池公園の使用開始 万葉の森竣工 第1回大池まつり 第1回ふれあいまつり 核兵器廃絶のまち宣言		
1989	平成 元	大沢池スポーツ公園竣工 第1回音楽祭 文化財保護審議委員会設立 国際交流ホームステイ事業開始 公共下水道工事開始 寝たきりをつくらない運動開始		昭和天皇崩御 元号が平成と改まる 東西ドイツ統一
1990	2	憩いの館竣工 天満幼稚園竣工(改築) こばと会後援会設立 肢体不自由児親の会「あじさいの会」設立 母里福祉会館竣工 訪問看護指導事業開始	大阪花博開催	
1991	3	さくらの森公園竣工 国内最大ミステリーサークル出現 母里小学校大規模改造工事(6教室)竣工 天満小学校教育研修施設整備事業「集いの木広場」 竣工 曇川せせらぎ公園竣工 母里幼稚園竣工 外国人による中学校英語指導開始 稲美斎場「ひじり苑」竣工	雲仙普賢岳噴火 湾岸戦争勃発 ソ連邦解体 バブル経済崩壊	
1992	4	加古幼稚園竣工(改築) いなみ文化の森竣工 中学校へ教材用パソコン導入 西部配水場配水池増設 特別養護老人ホーム「稲美苑」竣工 デイサービスセンター開設 義務教育週5日制(月1回開始) 第1回障害者福祉大会 国岡東部土地区画整理組合設立	日本PKO部隊海外派遣	

西暦	時代	町史関係事項	一般事項
1993	平成 5	第1回稲美健康まつり 東播用水受水開始 清掃センター施設整備工事着工 国岡国北土地区画整理組合竣工式 草谷川せせらぎ公園竣工 農業経営基盤の強化の促進に関する基本構想策定 役場土曜日完全閉庁実施	
1994	6	国岡国北土地区画整理組合解散 潟水応急対策本部設立 サン・スポーツランドいなみ(陸上競技場)竣工 社会福祉法人こぼと園設立 播州葡萄園歴史の館竣工	
1995	7	県立東はりま水辺の里公園(現「いなみ野水辺の里公園」)竣工 稲美町制40周年 義務教育週5日制(月2回開始) コスモバス開通 平和の鐘のメロディー町内へ放送開始	阪神・淡路大震災
1996	8	稲美清掃センター竣工 奥ノ池墓地完成 コスモバス廃止 国営播州葡萄園遺跡発見 公共下水道供用開始 下草谷クリーンセンター竣工	O-157大量発生
1997	9	播州葡萄園醸造場跡から日本最古級のワイン発見 加古福祉会館竣工 県営ほ場整備事業稲美地区竣工 野寺クリーンセンター竣工 BAN-BANテレビ放送開始	香港返還 マザーテレサ死去
1998	10	高菌寺野球場改修式典 加古郡リサイクルプラザ竣工 稲美シルバーワークプラザ竣工 東播磨農業共済事務組合設立 トライやる・ウィーク開始 県営ため池等整備事業天満大池竣工	明石海峡大橋開通 インド・パキスタンが核実験
1999	11	加古大池管理棟竣工 役場庁舎新館竣工 西部隣保館増築工事完成 介護保険(準備)要介護認定の申請手続き開始 草谷クリーンセンター竣工 東部隣保館大規模修繕工事完成 町ホームページ開設 天満南幼稚園竣工(改築)	欧州連合(EU)の単一通貨「ユーロ」誕生 地域振興券発行 コソボ紛争でNATOがユーゴスラビア空爆 トルコ大地震発生で死者1万7,000人以上 茨城県東海村で国内初の臨海事故発生 コンピューター西暦2000年問題
2000	12	介護保険サービス開始 野谷クリーンセンター竣工 タイムカプセル埋没	
2001	13	いきがい創造センター竣工(改築) 母里福祉会館「さわやかホール」竣工 いきいきセミナー開始 スポーツクラブ21活動開始 国安土地区画整理組合設立	米国同時多発テロ
2002	14	住民基本台帳ネットワークシステム運用開始 第4次稲美町総合計画策定	北朝鮮拉致被害者一時帰国 フセイン元大統領拘束
2003	15	障害者ふれあいセンター竣工 加古福祉会館「きらめきホール」竣工 戸籍の電算化 完全学校週5日制	
2004	16	役場庁舎内全館禁煙 ため池ミュージアム事業開始 中学生海外派遣事業による第1回派遣	自衛隊のイラク派遣開始 新潟県中越地震 スマトラ沖地震
2005	17	町制施行50周年 中嶋信太郎氏に名誉町民の称号を贈る 防犯パトロール事業スタート いきいき広場開始	愛知万博開催 平成の大合併50市町誕生

西暦	時代	町史関係事項	一般事項
2006	18	播州葡萄園跡が国指定史跡に指定 健康づくり施設「いなみアクアプラザ」竣工 のじぎく兵庫国体ウォーキング実施	
2007	19	日曜日窓口サービス開始	新潟中越沖地震
2008	20	後期高齢者医療制度開始	中国四川大地震 リーマン・ショック
2009	21	万葉森林浴グラウンドゴルフ場竣工 プレミアム付商品券発行 稲美北中学校女子陸上部が第17回全国中学校駅伝 大会で優勝 庁舎の壁面緑化	新型インフルエンザ流行 裁判员制度スタート 政権交代
2010	22	町制施行55周年	チリ地震 家畜伝染病 口蹄疫流行 日本各地で記録的猛暑 小惑星探査機「はやぶさ」が帰還 尖閣諸島中国漁船衝突事件
2011	23	町税のコンビニ収納開始 ごみ処理広域化推進推進協議の開始 町立幼稚園預かり保育開始	アラブの春 ニュージーランド大地震 東日本大震災 地上デジタル放送に完全移行 タイ大洪水
2012	24	いなみ文化の森 20周年	北太平洋で金環日食 東京スカイツリー竣工 政権交代